

SSKU

お元気ですか?
イリアンソス
です。

2014

春



社会福祉法人イリアンソス

●のぞみの家

東久留米市下里 2-7-18
042-473-9027
042-473-9036 (F)
nozomi@iriansos.or.jp

●活動センターかなえ

東久留米市八幡町 1-1-12
042-420-6316
042-420-6341 (F)
kanae@iriansos.or.jp

●なかまの家

東久留米市中央町 2-1-47
042-472-7130
042-444-3722 (F)
nakama@iriansos.or.jp

●生活寮「うみ」「そら」

東久留米市下里 4-2-7
042-476-3400 (F兼)
sora@iriansos.or.jp

●生活寮「にじ」「かぜ」

東久留米市下里 5-10-10
042-420-9943
kaze@iriansos.or.jp

●このみ

東久留米市幸町 3-8-23
042-473-9667

理事長の散歩道⑥

・特集

「かなえ引っ越し」

・コラム

『がんばる DAY』

・生活寮の窓からこんにちわ

・連載 がんばれイリアンソス⑫

『送迎運転を通して感じること』

理事長の散歩道



理事長の散歩道 ⑥

社会福祉法人イリアンソス
理事長 磯部光孝

権利条約を批准

日本の障害福祉の大きな金字塔として、「障害者権利条約」の批准はとても大きな出来事です。条約批准をきっかけにどんな障害のある人たちが、同年代の人と同等の人生を送られる社会が実現できるようにしたいですね。ただ、批准したからといって、すぐに障害のある人たちの置かれている環境が変わるわけではなく、「こうして欲しい、ああして欲しい」と具体的に伝えていかなければ、変わっていかないと思います。「親の世話にならなくてもいいだけの年金が欲しい」「グループホームではなくて、一人生活がしたい」「もっと仕事をしたい」など、一人ひとりが具体的に伝えていくことが地域を変えていきます。そのためにも、これまで以上に運動を強めていく必要があります。

全員就学から40年

この間、「障害者と家族の生活と権利を守る都民集会(以下、障都連)」の会合にお邪魔したら、今年、東京で始まった障害児の全員就学から40年が経過したことを知りました。わたしがこの仕事について約30年なので、40年前の全員就学についての実体験はあり

ませんが、のぞみの家の親からは色々聞かせていただきました。障害があると勉強についていけないからといって、学校に行くことが免除になったり、養護学校(現、特別支援学校)も選抜制で、入りたくても入れない方がたくさんいたそうです。現在の利用者では、友田英子さんの時代が全員就学運動の真ただ中だったそうです。この日本でもそんな時代があったことを、わたしたちはしっかりと理解していく必要があります。

国際障害者年

わたしが一番実感したのは、国際障害者年でした。国際障害者年は、国連が1981年に指定した国際年の一つです。1975年に「障害者の権利宣言」を採択し、これを単なる理念としてではなく社会において具体的に実現することを目的に行われました。その後、1983年から1992年を国連・障害者の十年として継続した取り組みとなり、「アジア太平洋障害者の十年」に引き継がれていくのです。

ちょうど、わたしが障害福祉の仕事を始めたころで、この国際障害者年の前と後とでは、社会が障害者を受け入れる姿勢が大きく変わったと感じました。

具体的には、障害に関する取り組みが、それまで福祉事務所(現、障害福祉課)だけだったのが、社会教育、社会体育なども独自に取り組んでいました。「ポカポカ春のつどい」「サンサンフェスティバル」、今はもうやって

いませんが「障害者運動会」などがありました。ボランティア活動も東久留米市社会福祉協議会を中心に活発に行われ、数多くの団体が誕生しました。

いろんな人とかかわる

特にわたしが関わっていたのは、「ポカポカ春のつどい」「サンサンフェスティバル」でした。両方とも春休みや夏休みなどの長い休みに少しでも親の負担を減らすことと障害のある子どもたちに楽しい一日を提供できればということから始まりました。ガールスカウトや教育関係の方々ボランティアグループ、地域の子どもたちなどたくさん集ってくれました。遊びを通して地域とつながればと思い、シーソーやロープウェイ、お化け屋敷、風船の部屋、プールなど様々なコーナーをつくってきました。行政が障害の関係する施策の中心にいたことで、さまざまな人たちとつながることができたと実感しています。

しかし、国の社会保障に対する考え方が変わり、保険とか支援とか国や行政のかかわりがいまいになって来ています。運動会もなくなり、「ポカポカ春のつどい」「サンサンフェスティバル」も市のかかわりが少なくなっているようです。改めて障害者権利条約を批准したことがどういう意味があるのか、しっかりと勉強し、今までの歴史を学びながら障害のある人もない人もともに安心できる暮らしを作っていきたいものです。



特集

かなえ引っ越し

活動センターかなえの建て替えのための準備が始まりました。
これまでの経緯や利用者の様子を追いました。



特集

活動センターかなえ 建て替え計画

「活動センターかなえ」は2002年に南沢にある、旧いみ幼稚園の建物の二階を重度障害者の通う場として東久留米市から貸与され活動をはじめました。

東日本大震災では天井の梁や壁にひびが入り、台風では園庭のポールが折れるなど建物の老朽化が浮きぼりになりました。また、当初から二階へのエレベーターがなく足の不自由な利用者にとっては、大変厳しい状況がありました。そこで、家族会が市議会に請願を出し全会致で採択され、議会をはじめ多くの市民のみなさんや近隣の方々のご支援で現在の場所に建て替えることになりました。現在、国の施設整備費の補助金の申請を行っているところです。

今年の四月より、東久留米市が使っていた園舎の解体と土地の整備を行うため、八幡町の「機械振興協会」様のご理解で建物の一部をお借りすることになりました。四月四日〜五日に引っ越し、現在は八幡町で活動を行っています。



引っ越しで一番大切にしたのは、利用者のみなさんへの影響を最小限に抑えたいということでした。場所が変わると建物の中に入れない人や落ち着きがなくなってしまう人などいる中どのように進めて行くのが利用者のみなさんにとって最良なのか職員で検討しました。

『大切にしたこと、そして気づかされたこと』



まずは、みんなに引っ越しの事を話す時期、そして見通しがもてるように引っ越し先の下見の実施です。引っ越し先では、引っ越し後すぐに通常通りの活動が始まります。みんなが落ち着いて安心して過ごせるように作業机などの配置も充分検討しました。

みんなに話す時期は余り早すぎても「いつ?」と見通しが持ちづらい為、2週間前の自治会(ひまわりの会)で話しました。そして

特集

同時に『みんなで見に行こう!』と下見にも
いきました。部屋の中やトイレなどをみたり、
建物に入る事が苦手な人は建物の外から「あ
そこが玄関です。」などスタッフが入っていく
姿を見てもらうなど、なるべくイメージが持
てるように下見を行いました。



ドキドキの引っ越し後初日の出勤日です。
戸惑う人はいるものの部屋のの中にみんな
入る事ができました!一度入ったもののだう
していいか分からずたまらず外に出てしま
う人、ドア付近で立ち止まってしまいう人もいま
したが、いつも知っているみんなの顔をみる
とほっとした様子で中に入って行きます。
『なかまの力ってすごいなあ。』と印象深い出
来事でした。
人を信頼し時には頼りにして不安や困難
を乗り越えていく利用者のみなさんの力強い

姿に気づかされた引っ越しでした。

引っ越しから約2ヶ月経った今、少しずつ
利用者のみなさんのいたずら(?!?)も増え本
当の意味でやっとな慣れてきたといったところ
です。新しい場所での楽しさを利用者のみな
さんと満喫していきたいと思えます。

活動センターかなえ 池田苗生子



コラム

がんばるDAY

3月25日(火)、4月8日(火曜日)、4月14日(月曜日)に国会請願署名・募金活動(がんばるday)を行いました。今回の請願項目は、「骨格提言」にそっての総合支援法に改正、介護保険優先原則の見直し(本人が必要な支援を選べるように)、安心して暮らせるよう基礎年金の引き上げ。を掲げました。

がんばるdayの事前の様子ですが、事前に各施設で、署名を書いてもらうのに、できるだけ書きやすくなるように画板を用意した方が良いのではないか。大きなポスターがあった方が地域のみなさんには分かりやすいのではないか。チラシを配ったらどうか。などと、活発な意見が多くありました。

がんばるday当日は、集合時間になると、「おはようございます」とあちらこちらから、声が聞こえるようになり、がんばるdayのスタートです。利用者のみんなも慣れた様子で、各場所に分かれて、大きな声を出して署名・募金をお願いをする人、少し恥ずかしそうに、チラシを配る人、少し離れたところから見守る人と、様々な方法で、地域のみなさんに訴えています。

暑いなか、地域のみなさんに真剣に訴えている姿はとても輝いて見えました。

そのような中、みんなの真剣な訴えが伝わり、署名・募金も多く集まるようになってきました。「頑張っ下さい」「ご苦労様です」など、優しい声を掛けて下さる方も少なくはありません。声を掛けてもらったみんなは自分達の思いが伝わったと、とても良い笑顔でした。

現在、権利条約が批准されたり、障害者差別解消法の制定があったりと、前進することもあり、これからがとてと大事なときです。みんなで団結した運動を通して課題を乗り越えて行きたいと思えます。

このみ 田中淳一

(きょうされん多摩北部ブロック長)



生活寮の窓からごんには

生活寮は、障害のある人たちが「住み慣れた町で楽しく暮らしたい」を支える生活の場です。現在4つの寮で28人の利用者さんが生活をしています。「うみ・そら」は二階建て、「にじ・かぜ」は平屋建てとなっています。

これは「にじ・かぜ」を建築する際に「うみ・そら」の経験を生かして、更に利用者さんたちにとつて住みやすい寮を構築した結果なのです。

基本的に月曜日から金曜日までを利用し、週末はご家庭に帰られる方が大半ですが、少しずつ365日を生活寮で過ごす方も増えてきました。また「にじ・かぜ」にはショートステイされる利用者さんもうらっしゃいます。寮でのスタッフの異動や、作業所の環境の変化などで不安になってしまう利用者さんもあります。一生懸命新しい空気に馴染もうとする姿は微笑ましく思えます。

日々笑ったり、泣いたり、怒ったり、喧嘩して仲直りして、また笑ってと沢山の変化を経験して利用者さんたちと一緒にスタッフも様々な事を学んでいます。

生活寮うみ 村田萌香

連載 がんばれ イリアンソス! シリーズ ⑫

「送迎運転を通して感じること」

石川忠男さん・加藤慎史さん

今回は法人の送迎を支えてくれている運転手さんにお話を伺いました。

毎日、安全運転ありがとうございます。

自己紹介をお願いします。

石川…のぞみとかなえに週4日程度、朝夕1時間半勤務しています

加藤…のぞみの家で週2日勤務しています。

Q1 経緯を教えてください

石川…シルバー人材センターから委任されました。

加藤…定年後も社会と係わりを持ちたく「シルバー人材センター」に登録。運転業務の希望で「のぞみの家」を紹介されました。

Q2 始めの印象はどうでしたか?

石川…初日、予想もしなかった状況に少々驚きましたが、働いているスタッフ皆さんの姿を見て、勇気とパワーをもらいました。

加藤…全く未知の分野だったので、無事仕事を続けてゆけるか不安でした。

Q3 仕事で心がけていることはありますか?

石川…何と言っても「無事故」です。安全運転と体調管理。それと、安心感を与えられる運転。

加藤…安全運転は当然ですが、利用者さんに安心して乗ってもらうよう、声掛け等コミュニケーションをとるようにしています。

Q4 現在の印象はどうですか?

石川…スタッフの皆さんからの適切なアドバイスを受け、勤務5年目に入りました。順調です。利用者さんとも和気あいあい良好な関係が築けてきたと思います。

加藤…大変な仕事をスタッフの皆さんは楽しそうに行なっている事、利用者さんが生き生きとしている事に好感を持っています。

最後に一言お願いします。

石川…安全運転が可能な限り今後も送迎を続け、少しでも皆様の役に立てる様に努力したいと思えます。どうぞ、よろしくお願いします。スタッフの皆さんも頑張ってください。加藤…楽しく仕事をさせてくださいと思っています。お役にたてる間は続けていきたいと思っています。ですので、これからもよろしくお願いします。

ありがとうございました。

これからも、よろしくお願いします。



石川さん



加藤さん

法人行事

くらこん

『リサイクル久留店』
のぞみの家 チャレンジ班が中心となって、手作りケーキなども販売
しています。

◎日程：7月3日(木) 17日(木)

◎場所：滝山団地センター前広場

※雨天中止 気温によって中止・開催時間短縮の場合もあります。

『イリアンソス映画会』

主催：イリアンソス後援会

◎日程：6月29日(日)

◎場所：東久留米市立生涯学習センター(まろにえホール)

◎時間：①午前の部10時～ ②午後の部13時30分～

◎料金：一般1000円 小学生500円

ご寄付をいただきました。

(5月末まで)

法人各施設にご寄付をいただいております。誠にありがとうございます。

いただいたご寄付は法人各施設の充実や、
将来構想の資金として大切に使用させていただきます。

藤田 祐子様

ありがとうございます。

表紙の写真

3月7日におこなわれた法人の入所を祝う
会・交流会のようすです。

H26.4月から佐藤碧(さとうみどり)さん
が新しい仲間になりました。

《 発行 》

特定非営利法人 障害者団体定期刊行物協会

〒157-0073 東京都世田谷区砧 6-26-21

Tel 03-3416-1698 Fax 03-3416-3129

《 企画、編集 》

社会福祉法人 イリアンソス

〒203-0043 東京都東久留米市下里 2-7-18

Tel 042-473-9027 Fax 042-473-9036

《 編集委員会 》

磯部光孝・多田由美・大河原敏和

村田萌香・小川清親・廣智章

矢島正樹・吉田遊佑・勝田誠矢

ホームページからはカラーで
ご覧いただけます

イリアンソス



定価 100円

編集後記

リユックを背負っていると汗で背中が
ビツシヨリ! あっ!

じめじめとした季節の到来かな!?
嫌な季節を感じながらの通勤。梅雨も、
もうじき来るのかな? でも、皆の笑顔
があればそんな事も吹っ切れる!?

活動センターかなえ 廣智章

